

令和元年度 第1回 御代田町総合教育会議 会議録

招 集 年 月 日	令和元年8月29日(木)	
招 集 場 所	エコールみよた 中会議室	
開 閉 会 時 の 日 時	開 会	令和元年8月29日(木) 午後3時30分
	閉 会	令和元年8月29日(木) 午後4時50分

意見交換

- | |
|----------------------------------|
| (1) 寺子屋塾、ステップアップスクールの状況について |
| (2) スマホ、タブレット、ゲーム機等に関するアンケートについて |

出席者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
御 代 田 町 長	小園 拓志	教 育 委 員	市川 美香
教 育 長	茂木 伸一	教 育 委 員	中山 梨恵子
教育長職務代理	柳澤 政弘	教 育 委 員	屋代 司

説明のため出席した者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
教 育 次 長	内堀 岳夫	生 涯 学 習 係 長	大井 敏
参事兼博物館長	堤 隆	学 校 給 食 係 長	藤巻 祐子
図 書 館 係 長	大井 るみ子	学 校 教 育 係 長	小平 佳伸
社 会 体 育 係 長	阿部 美穂		

職務のため出席した者の職氏名

書 記	井部 優理
-----	-------

傍聴人

0人

第1回 御代田町総合教育会議 会議録

1. 開会

内堀教育次長

開会あいさつ

2. あいさつ

小園町長

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、わたくし町長と教育委員会とが連携し、教育行政をより充実させることを目的に設置されています。

今年度も一層のご協力を賜り、本日の議題である「寺子屋塾、ステップアップスクールの状況」や、「スマホ、タブレット、ゲーム機等に関するアンケート結果」などについて、忌憚のないご意見を出していただき、より良い語らいの場となることを期待しています。

茂木教育長

町長にご説明いただいた通り、新しい教育委員会制度になり、このような形で会議を行っております。連携をとって教育行政にあたってまいります。

当町は、学校教育の規模に関していえば、2小学校1中学校という理想的な体制です。町長には教育行政についてご理解をいただいているので、これからともに考え、子どもたちのため、町民の皆様のためにより良い教育を目指してまいります。たくさんのご意見を頂戴したいと思います。

3. 意見交換

(1) 寺子屋塾、ステップアップスクールの状況について

小平学校教育係長

寺子屋塾、ステップアップスクールの状況について、資料に沿って説明。

内堀教育次長

中学校2学年数学のステップアップスクールでは屋代委員に講師をお願いしています。

小園町長

寺子屋塾は今年度初めての取り組みです。これから進めていく中でわかってくることもあると思います。年内に方向性が見えてくると、予算化の方向も見えてくるのではないのでしょうか。それを意識したスケジュール感で進めてください。

私も見学に行きたいと思っています。講師の先生方からは前向きな感想をいただいておりますが、「こうしたい」というご意見もあるでしょう。改善に向けて課題を伺いたいです。

中山委員

寺子屋塾やステップアップスクールは、良い取り組みだと感じています。大金をかけて塾に通わなければいけないところ、長期的に町で勉強を見ていただけるという素晴らしい事業だと思います。

講師の先生方からの感想に、子どもたちの学習の「進度」に差がある、とあります。「わかる子」と「わからない子」がいる中で、わからない子をどれだけフォローしてあげられるかが重要だと感じます。普段は大人数の中で授業が進められ、わからない子はわからないままに進んでしまいます。ある程度少人数の形式で教えてもらえることが、学力の底上げにつながっていくと思います。わかった、という自信がつくことも大事なことです。

講師の先生方の人数に限られる中で、たくさん子どもたちが寺子屋塾やステップアップスクールに参加してくれています。講師の先生方の感想にもある通り、「わかる子」と「わからない子」それぞれのフォローが課題になってくるのではないのでしょうか。秋田県の学力が常に上位にあるのは、「わからない子」のフォローに力を入れた結果だったと思います。フォローの手立てがあれば、それが学力向上につながっていくのではないかと思います。

屋代委員

町長にお伺いしたいことがあります。そもそも、寺子屋塾やステップアップスクールの目指す場所はどこでしょうか。

小園町長

ここで目指しているのは、「苦手なこと」を「ふつう」レベルまで底上げすることです。それが御代田町の課題だと思っています。どれくらいを「できない（苦手）」というのかは難しい問題ですが、初めての事業ですから、これもある意味やってみて初めてわかることではないでしょうか。

週1時間でも、やらないでいるよりは良い結果につながるだろうという仮説のもとにまず始めた事業です。進める中で課題を見つけ、事業の改善を図っていきます。基本的に、苦手な子がそれなりにできるようになることが大事だと思っています。

屋代委員

学力の底上げということでしょうか。私が中学校2学年数学のステップアップスクールで教えている生徒は4人です。その生徒たちは「できない」わけではありません。しかし底上げの観点だと、彼らより「苦手な」グループにも目を向けなければなりません。中学2年生は部活もあって参加率が低いのです

が、例えばその「苦手な」生徒たちがステップアップスクールに参加しなければ、苦手を克服しないまま3年生になるわけです。

やりたい人はどうぞ参加してくださいという姿勢でも良いとは思いますが。士気の高い向上心のある生徒がステップアップスクールに通うことで学力が向上し、クラスの周りの子どもたちにも良い影響を与えるということも期待できると思います。しかし底上げを目指すのであれば、それ相応な手立てが必要ではないでしょうか。

小園町長

リクルートの仕方ですね。そのあたりが今年一番の課題、まさに「やってみて初めてわかる」の最たるもので、どんな子が手を挙げるのかわからない状況でした。

例えば私が通った中学校では、英語の成績が下から三分の一の生徒が機械的に選ばれるという仕組みがありました。そこまで露骨な方法は適当ではありませんが、募集の仕方を考えたいと思います。

勉強が苦手なことで不自由に感じたり、学生生活が暗いものになってしまったりするのは気の毒なことだと思います。この意見はありがたく参考にさせていただき、何とかその子たちに届く方法を探したいと思います。

屋代委員

生徒に届くとすれば、一番それができるのは学校現場の先生たちです。教育委員の新人研修の場で、中学校の先生方の超過勤務時間が多いということについて質問しました。働き方改革の一環で、部活動の顧問を外部に委託する等の予算措置はできないのかと聞いてみました。先生の負担を軽減させて、授業に集中してもらうことが大事ではないかと思ったからです。外部顧問に予算を投入しても、引き受け手がないからだめなのかもしれませんし、先生方の負担を軽減する方法に何があるかわかりません。しかし側面サポートをして、先生方が授業に集中できる環境を作ることも必要なのではないのでしょうか。

私は教えるのが好きです。しかし、生徒に一番多く関わることができるのは、やはり学校の先生です。

私は家庭教師をしています。教えていて気づくことがあります。一度授業で習ったことについては理解しやすいということです。子どもたちはなかなか予習というものをしませんが、授業で一度習ったものには食いついてきます。小学生で

も中学生でも高校生でもそうです。授業中ただ座っているだけでも一度先生が教えてくれたことは「そうなんだ」と思えるようです。ですから、授業は大事だと思っています。

一般の塾も寺子屋塾やステップアップスクールでも、授業というベースの上に成り立っています。ある生徒が塾に週10時間通っているとしても、それでも当然学校で過ごす時間のほうが長いわけです。そんなに塾に通っても学校の授業がなければ効果がありません。私は教えるのがすごく好きなのですが、それでもやはりいつも思うのは、学校の授業が大切なんだなということです。

内堀教育次長

授業が大切だということは教育長も校長会の中で先生方に伝えていきます。

茂木教育長

学力向上を目指すには色々な政策があると思います。寺子屋塾やステップアップスクールはそのうちの一つであって、これが全てではありません。寺子屋塾やステップアップスクールに通ったから学力が上がるというものではないし、むしろ末梢的な部分です。しかし寺子屋塾やステップアップスクールで教えてもらうことで、授業でわからなかったことが少しでもわかるようになるかもしれません。苦手な子がわかるようになるかもしれません。わかるようになったことが元で、自信をもって授業に臨めるようになるかもしれない、そんな好循環を生み出す要因にはなると思うし、大切な政策であるし、しかも公的な形でできる体制が取れる町であることは素晴らしいと思います。

一方では屋代委員がおっしゃる通り、子どもたちが大部分を過ごすのは学校です。授業の質の向上なくして、理解が進むということ、子どもたちのやる気を起こすということは絶対的にあり得ないと思います。

授業改善の掛け声だけでなく、具体的に何ができるのか、学校の工夫が見えてきています。北小学校では15分+45分で60分の授業ができるように進めています。もちろんそれに耐えられる授業をしなければ子どもたちの集中も切れてしまいますので、そこに初めて教師の工夫が生きてくるのです。漫然とした授業ではだめです。様々な手法を駆使して授業を成り立たせ、質を改善させていく。それがないと子どもたちの心に火はつきませんし、その方法はみんなで見つけていかなければなりま

せん。そのためにはそういう学校にしたい、そういう授業にしたいという先生方の向かう方向も大事になっていくので、校長、教頭の指導や先生同士の学びあいも必要です。

町の指導主事も3校を回ってくれています。指導主事は、授業に密着して、先生の指導してくださる先生です。県にもその制度がありますが、それは研究授業的なものであり、時にお招きする一時的なものに過ぎません。日常的な授業にかかわってくれる先生が町に一人いてくださる体制は大事にしてもらいたいと思います。町の規模で指導主事という形で職員をおいている自治体は多くはありません。小学校は基本的に担任の先生が授業をすることが多いですから、担任の先生に火がつけば授業の改善につながりやすいのです。相関性があるかはわかりませんが、指導主事の中島先生に入らせていただくことで、全国学力テストの結果もよい方向へ向かってきています。

中山委員

寺子屋塾やステップアップスクールには底上げという意味もありますが、町のお金でやるということも重要なことだと思います。

祝辞が大きな話題となった東京大学の入学式でしたが、その祝辞の中に次のような内容がありました。「頭がいいから東大に入れたのではなくて、家庭に財力があるから入れたのだ、あなたたちだけの力ではないのだ。」というものです。まさにそれもある気がしています。家庭に力があれば個別塾に行かせて、子どもの苦手な部分をフォローすることができます。本来お金がかかることです。しかし、寺子屋塾ならお金がなくても、勉強する意欲さえあれば、テキスト代だけで勉強を教えてもらえます。学力だけでなく、財政面のフォローもできる事業です。

寺子屋塾は始まったばかりですが、子どもの成果が口コミで広がれば、親の意識も変わって、参加者が増えるのではないのでしょうか。来年が楽しみな事業です。学力の底上げと親の財政面支援の意味でも、公的に実施できるのは良いと思いました。

小園町長

この事業の立ち上げの時、民業圧迫を心配しました。しかし、始めてみないとわからない部分でしたが、教育に対する意識が高まったときには、むしろ町内の塾の需要は高まるとも思っていました。寺子屋塾だけでは足りないから、もう少しだけ勉強したいというお子さんが増えると思ったからです。今まで放課後に勉強するということにアクセスしていなかった家庭

が、授業以外の勉強にアクセスすることが増えるので、民業圧迫とは逆になると考えています。

屋代委員がおっしゃるには、子どもたちは予習に抵抗があるということですね。札幌で通った塾ではおそらく8割が予習をしていました。ですから塾ではそれを前提にもっと深い部分を勉強できました。私の小学5年生になる娘は今年の3月から佐久の塾に行っていましたが、辞めてしまいました。全員予習をしてこないから、予習してこないことを前提にして始まる塾に意味がないと判断したからです。これは御代田町だけの問題ではないことがわかりました。屋代委員のおっしゃったことももちろんですが、できれば授業で聞くことは2回目になればいいなと思っています。

授業を受けると、塾とは別の視点のものが見つかります。授業で2回目を聞くことで、理解が深まります。「学校の授業は馬鹿にできない」と私は学生の頃思いました。ですから、学校の授業は大事だし、色々ところで学校の先生のお借りすることが大事になってくると思っています。

この事業を発案したとき、先生方が学校の教室を貸してくれると思っていませんでした。また、教育長の力をお借りして講師の先生のリクルートをしていただき、優位性のある中で始めることができました。初めに考えていたものとずれています。これまでの思い込みを少し変えて、この地域でやるにはどうしたらよいのかということを感じながら進めていきたいと思っています。

茂木教育長

学校の理解と様々な協力なくしては成り立たない活動です。今は学校の先生方にご迷惑かからないように、負担にならないように、この事業には一切タッチしてもらっていません。今後は担任の先生と、寺子屋塾やステップアップスクールの先生との連携を狙っていきたいと思っています。

「この子は寺子屋塾に通ってみたら理解が深まった。」という児童が一人でも多く担任の先生の実感として増えればよいと考えています。教えてくださっている講師の先生方のほとんどが教員経験者ですから、担任の先生方との連携はうまく取れるのではないかと思います。「この子は今日の授業のこの部分がわからなかったようだから、寺子屋塾でおさらいしてください。」とお願いできる関係が出来上がればよいと思っています。寺子屋

塾への参加を促してもらっただけの連携かもしれませんが、逆に学校の先生が寺子屋塾やステップアップスクールを利用してくれるようになることを願っています。

内堀教育次長

寺子屋塾、ステップアップスクールについては今後課題を改善して進めてまいります。

(2) スマホ、タブレット、ゲーム機等に関するアンケートについて

茂木教育長

アンケートの経緯について説明。

小平学校教育係長

アンケートについて、資料に沿って説明。

内堀教育次長

3校で統一したアンケートとしては初めてですので報告いたします。

屋代委員

結局、「ネット」をどう使うかというのが問題です。

私もホームページを持っています。2ちゃんねるが始まる前から掲示板というものはあり、その頃の掲示板は無法地帯でした。当時気が付いたことがあります。ネットの掲示板に書き込みをすると返事が返ってきますが、何人もが見ているのだと思っても、実は5、6人しか見ていないのです。私はブログも持っていますが、どれだけの方がブログを見に来ているか解析できます。見に来ているのは私ともう一人だけで、ネットというのはそういうところなんです。例えば、私の住所を知っている人はあまりいませんが、ネットも似たようなものです。誰もが見に来るわけではありません。しかしネットの世界では自分が注目されているような気がして、自己肥大してしまいます。

昔、ネットで中傷されてかっとなった人がバスジャックを起こした事件があります。煽った人は何万人ではなくて、ほんの数人でした。それがネットの視野です。

今はスマホで情報が手に入ります。自分が欲しいと思えばすぐ手に入りますが、しかしそれは食わず嫌いの情報です。自分が欲しいと思った情報しか手に入りません。スマホがなかった時代、テレビしかなかったころ、私は夜の7時になったらニュースを見ていました。そうすると世の中の情報が入ってきました。しかし今は自分の見たいものしか見えません。閲覧性が低いという表現をしますが、本や辞書と違ってスマホの情報は食わず嫌いなのです。

最近の中学生はものを知りません。ある生徒が1700年代を17世紀と間違えたので、「今何世紀だ？」と聞いてみたら「わからない」と答えました。それはなぜかという、食わず

嫌いの情報で、自分の知りたいことしか知らないからです。

アンケートにあるように睡眠時間や勉強時間が減ったというのも問題だと思いますが、一番の問題は情報の視野が狭くなっていることだと思います。

内堀教育次長

スマホの利用については、強制的ではないにしろ、今後色々なことで学校と協力して、対策を進めていきたいと思います。

柳澤教育長職務代理

スマホは子どもだけの問題ではありません。親が自己管理した上で、子どもたちに伝えていかなければならないことだと思います。

その他

4. 閉会